

# 業界 information

## 日本貨物鉄道(株) 東北支社

賛助会員

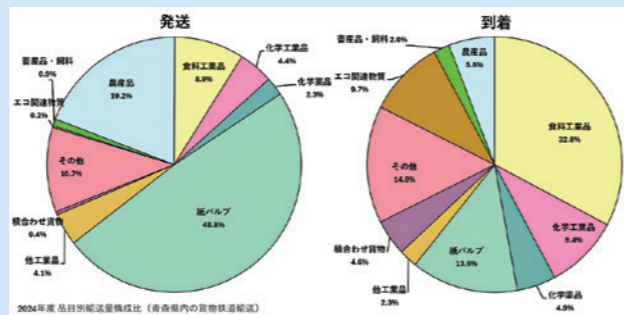
日本貨物鉄道株式会社(JR貨物)は1987年4月1日に、日本国有鉄道(国鉄)の分割民営化で誕生したJR7社(旅客6社、貨物1社)のうちの1社で、全国ネットワークを展開している唯一の鉄道事業者です。各旅客会社に通行料にあたる線路使用料を支払うことで北海道から鹿児島まで、貨物列車を運行させています。コンテナ取扱駅は約140駅あり、青森県内には東青森駅、八戸貨物駅、弘前オフレールステーションの3駅があります。青森県からはリンゴや米、野菜等の農産品や紙製品、食料工業品などが主に発送されています。

畜産・飼料関係では、鶏卵や冷凍肉等が青森県から全国各地へ、飼料は逆に全国各地から青森県へ到着しております。このように会員の皆さまとは古くからお付き合いがありました。しかし、貨物鉄道輸送を利用する場合は利用運送事業者を通じてとなるため、当社と会員の皆さまが直接やり取りをする機会がなく、接点がない状況でした。今回、協会にお誘いいただき、これまでの状況を変えようとして入会した次第です。日頃から貨物鉄道輸送をご利用されている皆さまには、改めて御礼申し上げます。



さて、近年の物流課題とすれば、2024年問題という言葉も一度でも聞いたことがある方が多いと思います。他業種よ

りも労働時間が長いとされるトラックドライバーの時間外労働時間を年間960時間以内に制限するものです。しかしながら労働時間が制限されることで、トラックでの長距離輸送が難しくなっており、全国的に影響が出てきております。青森県でも徐々に長距離輸送が難しくなってきたりあります。



貨物鉄道輸送は、中距離帯(400~800km)においてメリットを発揮できる輸送機関です。青森県からだと関東地区以西がちょうどこの距離帯になりますので、さきほどの2024年物流問題でトラックからの輸送の受け皿として期待されているところではあります。

また、CO2排出量原単位が営業用トラックの約1/11であることから、環境政策上の観点からシフトを検討される荷主様もいらっしゃると思います。

国は、多様なモードを活用したモーダルミックスとして物流の効率化を推進しております。

青森県には青森港・八戸港、そして当社の3駅があり、トラックから船舶や鉄道にモーダルシフトしやすい環境です。トラック・船舶・鉄道それぞれの良いところを選択していただき、青森県の畜産・飼料業界が2024年物流問題等乗り越えるためのお手伝いができればいいと考えております。引き続き青森県の発展のため貨物列車は走り続けます。

### 事務局だより

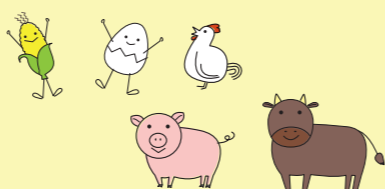
昨年12月8日発生の中東地方沖の地震により被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。会員企業様の中にも少なからず被災され、まだ復旧途中のところもあります。一日も早い完全復旧をお祈り申し上げます。昨年度は喜ばしいニュースもありました。ヴァンラーレ八戸のJ2昇格です。

本号では(株)ヴァンラーレ八戸代表取締役社長下平賢吾様にご寄稿いただきました。サッカーで地域を変える、スポーツで地域に貢献するという強い信念で挑戦する姿勢に勇気づけられます。4月、当協会も新年度を迎え引き続き畜産振興を通して地域振興への寄与を目指します。会員皆様、行政他関係各所の皆様には引き続きご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### 今後の予定

6月8日(月)  
● 定時総会・懇親会  
(八戸パークホテル)

6月または7月(予定)  
● 会員向け施設見学会



業界の枠をこえ、地域に根付いた活動を目指して

# Linkage

リンケージ

(一社)青森県畜産・飼料コンビナート振興協会 PR情報誌

# vol. 18

(2026年4月発行)

< 発行 >  
一般社団法人  
青森県畜産・飼料コンビナート振興協会  
〒039-1164 八戸市下長二丁目2-24  
下長第4オフィス2階7号室  
TEL:0178-51-8868 FAX:0178-51-8876  
WEB:https://linkage-aomori.jp/

< 編集 >  
総務委員会

## 地域に必要とされ、役に立ち、愛されるクラブへ

～サッカー・スポーツで地域を変えられる～

株式会社ヴァンラーレ八戸 代表取締役社長 下平 賢吾

青森県南部地方の16市町村をホームタウンとしてサッカークラブを運営させていただいていること、サッカーで生活させていただいていること、「当たり前ではない」と日々思い、活動させていただいていることに感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

(一社)青森県畜産・飼料コンビナート振興協会正会員の(株)川賢様、(株)オリエンタルファーム様を初めとする多くの企業の皆様がオフィシャルパートナーとして、東北グレーンターミナル(株)様は高校生年代・トップチームの食育サポートパートナーとして、(株)イチカワファーム様は2021シーズンから毎年、ナイトゲーム初戦時に「毬姫牛」牛串の来場者へお振舞いを実施、プライフーズ(株)様はユニホームパートナー(2022シーズン～)、食育パートナーとしてのご支援と我らのホーム「プライフーズスタジアム(2020年1月～)」で五穀味鶏を使用したメニューを提供する「ヴァン飯カップ」を開催、当協会の皆様には様々な角度からクラブを支え続けていただいていることに感謝申し上げます。

そしてヴァンラーレ八戸に関わるすべての皆様のご支援・ご協力でJ2昇格を果たし、今現在J2クラブとして、明治安田生命J2・J3百年構想リーグを戦い、8月に開幕するJ2リーグに地域の皆様と共に「全緑」で挑めることに事に重ねて感謝申し上げます。

昨年の2025シーズンの競技面では、こぼれ球奪取数、1対1勝利数、被枠内シュート数、失点数はリーグ1位、1試合平均総走行距離数は断トツでリーグ1位、これまで積み上げてきた、「八戸の色」である徹底を徹底する、実直に愚直に粘り強く戦う姿勢で結果を出せたことは、2026シーズンのスローガンである「全緑 our belief ～揺るがぬ信念～」に繋がり、今後も揺るがぬ信念を持ち、明治安田生命J2・J3百年構想リーグで良い準備をし、本シーズンの8月開幕J2リーグに挑んでいきます。

運営面では、総来場者数45,114名、1試合平均観客動員数2,374名とクラブ史上最多の観客動員数となり、7月26日(日)ガイナレ鳥取戦で首位となった以降の1試合平均観客動員数が3,140名と皆様の熱量が選手の背中を強く押し、プライフーズスタジアムに臨場感と一体感が醸成されました。スタジアムでの声援はもちろん、日常の中での励まし一つひとつが、選手・スタッフの大きな力となりました。

J2リーグではJ1経験クラブもあり、アウェイサポーターが来県される方が、500~1,000名となる試合も多くなると思います。J3に昇格し

た2019シーズンを試算して、発表させていただいた経済波及効果10億5千万を大きく超えることが推測されます。

東北社会人リーグ1部・JFL・J3・J2と4度の昇格を達成して「サッカー・スポーツで地域を変えられる」と実感しております。

全国各地からサポーターが八戸を訪れ、宿泊、飲食、交通、土産物などへの消費が増加する。これにより、地元の中小事業者や観光関連産業が活性化し、地域経済の底上げにつながる。また、メディア露出が増えることで「八戸」という地域名の認知度が全国的に高まり、観光誘客や企業誘致のきっかけにもなり得て、地域の一体感と誇りの醸成という社会的効果に繋がり、J2というより高い舞台で戦うクラブの存在は、世代や立場を超えたつながりを生み、勝利や挑戦の物語を共有することで、「この街にはヴァンラーレ八戸がある」という誇りと、「昨日、ヴァンラーレ八戸勝ったね。」「守備はいいけど決定力がねー」等々の地域住民に日常の共通話題と応援対象を提供するクラブが身近にあることで、子どもたちは夢や目標を具体的に描きやすくなり、努力・挑戦の価値を学ぶ機会が広がると確信しております。

企業理念	「地域から必要とされること」 「地域の役に立つこと」 「地域に愛されること」
存在意義	サッカー・スポーツを通して エンターテインメントを地域に提供する

地域の皆様と共に企業理念・存在意義の遂行に全緑で取り組み、更なる挑戦し続けることをお約束致します。

今後も(一社)青森県畜産・飼料コンビナート振興協会の皆様のご支援、ご協力、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げますと共に当協会会員の皆様の益々のご発展、ご多幸をお祈り申し上げます。



# Pick Up NEWS



海外からトウモロコシを積んできたバナマックス級大型本船



そのトウモロコシが牛さんのエサに入っています



## 施設見学会

東北グレーンターミナル(株)  
(株)イチカワファーム  
(株)NAMIKI デーリィファーム  
IH ミートパッカー(株)



11月10日、十和田市立西小学校5年生22名が、八戸飼料穀物コンビナートの中核企業の東北グレーンターミナル(株)と、オリジナルブランド牛「八戸毬姫牛」を生産する(株)イチカワファームを見学、世界の穀倉地帯で生産された穀物で配合飼料が製造され農場に運ばれて牛を育て、生産されたお肉が消費者に届くまでの流れを学びました。  
11月11日には、八戸市立多賀小学校5年生20名が(株)イチカワファームを見学しました。生徒たちは愛情込めて大切に育てられる牛の話を聞いて「食」への感謝の気持ちも生まれたようでした。

食肉流通の説明を受けた後、工場を見学します



海外輸出に対応した最新鋭ビーフプラント



11月11日、青森県立三本木農業恵拓高等学校生徒24名が、IHミートパッカー(株)十和田ミートプラントと十和田ビーフプラントを見学しました。生徒たちは初めて見る牛及び豚の生体と畜から解体、食肉加工までを見て、普段食べているお肉となるまでには、たくさんの工程とそこに携わる人たちの努力があることを理解するとともに、命をいただくことへの感謝の気持ちを新たにすることができました。

ロータリーパーラーの搾乳が印象に残りました



サイロで扱う各種飼料原料を味見する生徒も!



11月20日には 同校生徒23名が、(株)NAMIKIデーリィファームと東北グレーンターミナル(株)を見学、大規模酪農施設と飼料穀物コンビナートに位置するサイロ会社の2ヵ所を見て、海外から輸入された飼料原料穀物で配合飼料が製造され、その飼料で家畜が育てられ生産された畜産物が消費者に届くまでを学習しました。また、そのプロセスに携わる人たちの努力や思いも直接聞いて、職業としての畜産を意識する機会にもなったようです。

## 畜産グルメパーティ

200名が県産畜産物を使った様々なメニューを味わいました



11月14日、「第7回畜産グルメパーティ」を八戸プラザホテルで開催、青森県産畜産物を使ったオリジナルメニューにより皆様に県産畜産物の美味しさを堪能いただきました。畜産物他が当たる大抽選会もあり青森県の畜産と畜産物PRの一夜は大いに盛り上がりました。ご協賛いただいた会員各社様には改めて感謝申し上げます。



いちばん人気の豪華賞品、県産豚のロース1本!

小学生に料理を教える高校生にもよい体験となりました



## こども料理教室



1月31日、「はっち」(八戸市)で小学生14名が千葉学園高等学校調理科の生徒と一緒に「鶏肉のフォワイヨ風」を作りました。下味を付けたもも肉を皮目から焼いて、裏返して白ワインで蒸し焼きに、バターに生パン粉とチーズを混ぜた衣をのせてバーナーで表面をあぶって、本格的な洋食メニューができました。鶏肉を提供したプライフーズ(株)様の出前授業もあり、美味しく楽しい学びの場となりました。

本格的な味と盛り付けの一皿です

## 講演会・新年懇親会

2月19日、恒例の「講演会・新年懇親会」を開催しました。講演会は「中小企業こそ使いたい最新生成AIの仕事活用術」と題して、(株)MAKOTO Prime(仙台市)代表 竹井智宏氏に、畜産業界のみならず産業界として協会企業課題でもある生成AIの活用という時宜を得たテーマで講演いただきました。講演会終了後は新年懇親会を開催、業界の枠を超えた交流の場となりました。



会員、行政、関係者ら110名が熱心に聴講しました